

池田町第6次総合計画

第1回池田町総合計画審議会 会議録

と き : 平成30年1月29日(月) 13:30~

と ころ : 池田町役場 大会議室

出席者

(委員)

小澤裕子 委員 丸山史子 委員 原俊生 委員 太田芳寛 委員 森泉恵子 委員
平林淳志 委員 村上美保 委員 小林正芳 委員 山崎猛 委員 柳沢剛 委員
牛越邦夫 委員 赤田弥壽文 委員 伊藤将人 委員

(池田町)

町長 甕聖章 副町長 大槻覚 総務課長補佐兼総務係長 宮澤達
住民課長 矢口衛 産業振興課長 宮崎鉄雄 建設水道課長 丸山善久
健康福祉課長補佐兼福祉係長 寺嶋秀徳 生涯学習課生涯学習係長 大澤孔
議会事務局長 大蔦奈美子 会計課長 倉科昭二

(事務局)

企画政策課長 小田切隆 課長補佐(町づくり推進係担当) 塩川亜弥子
町づくり推進係長 寺島 靖城 町づくり推進係主査 丸山佳男

(進行:小田切企画政策課長)

- 1 開 会 (小田切課長)
- 2 あいさつ (町長)
- 3 委員の任務について (説明:塩川課長補佐)
- 4 委員の委嘱 <小澤裕子 委員に代表して委嘱書町長手渡し>
<自己紹介>
- 5 会長及び副会長互選
<小田切課長より腹案の提示(会長丸山史子 委員 副会長 高山明男 委員)>
<拍手により全員の賛同を得る>
<会 長 丸山史子 委員 副会長 高山明男 委員 に決定>
<丸山史子 会長より就任のあいさつ>
- 6 諮 問 <甕町長から会長へ諮問>
- 7 議 事 (進行:丸山史子 会長)
 - (1) 池田町第6次総合計画の策定方針について(6ページ)
 - (2) 町民アンケート調査結果の概要について(別冊資料)
 - (3) 第5次総合計画の主な成果と達成状況について(資料1) (一括説明:塩川課長補佐)

発言者	発言内容
太田芳寛 委員	策定方針P7(3)②目標の明確化について、「できる限り数値を用いた目標を設定します」とあるが、P6(2)総合計画の構成にある通り、基本構想・基本計画・実施計画という長期・短期の目標により構成されているので、こちら「長期・短期(又は目標年度)目標毎できる限り数値を用いた目標を設定します」とすべきではないか。

塩川課長補佐	<p>第5次総合計画では前期・後期基本計画では数値目標を設定してきたが、10年期間で定める基本目標で設定できるか検討したい。</p>
小田切課長	<p>他市町村の計画を見ても、基本目標は方向性を示すもので細かい指標は設定されておらず、基本計画で目標数値が設けられているので、今回もそのようになると思う。</p>
牛越邦夫 委員	<p>第5次総合計画検証は膨大な資料で本日審議が十分にできないので、今後とも扱っていくのかどうか一つ課題である。</p> <p>また P7(5)各種計画の整合性で総合戦略・人口ビジョンに関する記載があるが、人口が今後どうなっていくかが町にとって一番大きな問題である。人口について少なくとも30年先を見越して目標をたて、それを10年・5年と区切って取り組むことが長期・短期の目標となり、太田委員の意見と同じだと思う。</p> <p>次に現在の人口について、町のさまざまな資料・計画に記されている数値が異なる。住民登録されている特別養護老人ホーム入居者、病院長期入院患者等をどう扱うかという問題もある。まずどの数値を池田町の現在人口としていくのかお聞きしたい。また人口ビジョンにおいて2,040年の目標人口が9,108人と定めた根拠を説明して欲しい。</p>
塩川課長補佐	<p>人口現在値をどの方法により算出したものを使っていくかは、多くの市町村で人口ビジョン策定の際国立社会保障・人口問題研究所算出の人口推計を使用しているので（参考：基準は国勢調査数値を使用）、その数値を基準にしていきたい。また人口ビジョンの目標数値をどうやって定めたかは、その推計人口に人口増対策を行うことにより出生率増・転入者増・転出者減になるとして算出した数値である。</p> <p>また、人口増対策も含めたあづみ野池田総合戦略の計画期間が平成31年度までで第6次総合計画スタート時点ではまだ途中であるため、総合計画の目標数値を人口ビジョンと異なる値とすることは難しい。</p>
小田切課長	<p>牛越委員が言われたとおり町策定の各計画により人口現在値が異なるケースがある。住民基本台帳の数値と実際居住している方への調査結果による国勢調査の数値があるためである。</p> <p>また近年の人口推移は、転入者は特別養護老人ホーム入居者等による高齢者が多く、転出者は若者が多く、死亡者数に対して出生数が平成28年度は大きく減少したので危惧する所である。この点が人口増対策のポイントとなる。</p>

牛越邦夫 委員	<p>第5次総合計画検証に関して資料1 P59「職員管理の適正化」について、実績「職員定数117名に対して職員数99名」達成度「A」とある。成果に「池田町定員管理計画で基準となる職員を95名とする」が、行政の効率化は人員削減ではないと思う。行政サービスは職員の力に頼る所が大きいので、職員数が減ればサービスは落ちるのではないか。業務の効率化はどんな無駄があるか洗い出してそれを無くしていくことであり、そこで余った力を住民のために使っていくようにしなければならない。職員数が減ったから成果が上がったとすることは間違いである。</p> <p>また同箇所「人材育成の観点から平成28年度より人員評価制度を導入した」とあるが、評価結果が勤勉手当に繁栄することは労働組合と協議して合意形成された内容なのか。これは大きな労働条件の変更である。公務場で勤務評定をすることは弊害が出ると言われている。高い勤務評定がつくような仕事にばかり力を入れ、本当に住民が求めていることに目が向かなくなるのではないか。評定結果が低い職員の勤勉手当を削り、高い職員の手当を上げるとは職場の和を乱すことにもなる。労働組合との合意が図れているのであれば口をはさむことでもないが、それを公表するのはいかがなものか。</p>
宮澤課長補佐	<p>人事評価制度導入は地方公務員法改正により義務づけとなり、その旨を労働組合との交渉の際説明してある。</p>
小田切課長	<p>国は行政改革として職員数削減の方針を出している。町ではそれに基づき年次計画を立て退職者と新規採用者のバランスを取りながら徐々に職員数を減らす取り組みをしているので、成果が上がったと評価している。</p> <p>但し職員数削減により住民サービスが低下するようなことがあれば、何の成果にもならない。</p>
丸山史子 会長	<p>職員数減は確かに影響が大きい。他の職員に負担がかからないよう配慮するなど総合的な見地に立って進める必要がある。</p>
伊藤将人 委員	<p>先程質問でも取り上げられたP7(5)人口ビジョンの推計人口と目標人口について、今後この審議会で協議する際目標人口になっていくことを前提とするのか、それとも推計人口になっていくことを前提とするのか。</p>
塩川課長補佐	<p>人口ビジョンで掲げた目標数値を総合計画でも目標数値としていきたいので、ご理解いただきたい。</p>
伊藤将人 委員	<p>資料1 P15 子育て支援の課題と対応について、「子育て支援、少子化対策」は町民アンケート結果でも今後町が特に力を入れるべき分野第1位となっているが、課題に「祖父母に良き理解者、協力者となっていただきたいニーズが出てきた」今後の取り組みに「祖父母の個別セミナー」とあるが、これは祖父母が同居もしくは近居の方を前提としている。現在家族の価値観が変わり核家族化が進んでいるし、移住施策を行っている中、祖父母の協力が得られない方が増えるという前提で対策を立て、付け加える必要があるのではないか。</p>
塩川課長補佐	<p>最もであり、計画に反映するよう努めていきたい。</p>

<p>山崎猛 委員</p>	<p>町民アンケート調査は多くの方よりご回答いただいているので、結果は今後審議するにあたり大変重要な資料となる。概要版 P3 にマトリクス（関連する情報を縦軸と横軸に分類することで、それらの相関関係やポジショニングを捉えるための図）があるが、どういう意図でこの結果を出したか疑問に感じる。質問文に誤解を受ける表現があるのではないか。アンケート調査報告書 P7【問 3】に「これまでの取り組みについてどのくらい満足していますか。（満足度）」とあるが、施策に取り組んだ結果についてか、この施策の項目が充分であったか、どちらの捉え方をしたかにより解釈が変わってきてしまう。後述だと捉えると左下の枠「施策の縮小・見直しが必要な領域」との表現に合ってくるが、前述だと捉えると「施策の縮小」との表現はおかしい。</p> <p>この設問でどちらのことを聞きたかったか、まずお尋ねしたい。</p>
<p>塩川課長補佐</p>	<p>施策の項目・取り組み方も含めて両方である。</p>
<p>山崎猛 委員</p>	<p>回答が、この施策によって十分な結果が得られていない、不満であるものならば、どうやれば満足度を得られるかと方策を立てるのが計画に値する。「施策の縮小」との表記はおかしい。</p> <p>設問のとらえ方により解釈が変わってきてしまう。</p>
<p>小田切課長</p>	<p>「施策の縮小」という言葉が適切であったかどうか、事務局で検討しなければならないが、重要度が低いとの結果が出ているものについては、今後見直しをかける必要があるとの意味で「縮小」と表した。施策が重要で、且つ満足度が低いエリアは左上に設けられている。アンケート結果を点数化し、相関関係を捉えるために出した結果がこのマトリクスになるので、ご理解いただきたい。</p>
<p>山崎猛 委員</p>	<p>アンケート調査結果は重要でこれは今後も使われる図であるので、この数値結果が多くの子の住民の意向だと判断されてはいけないと危惧するので指摘をした。</p>

牛越邦夫 委員

資料 1P60 財政健全化について現在財政状況は健全な状態とある。健全と言えるのか、まず P61「地方債現在高の縮小」に H24 年度は約 112 億円、H28 年度は約 104 億円と全体では減少しているが、減少しているのは特別会計であり、下水道事業会計は毎年返済が決まっているので当然である。問題は一般会計で 5 億円増えているのに健全と言えるのか。また経常収支比率の現状・実績双方の数値に臨時財政対策債を含んでいるのか。次に実質公債費比率で現状の H25 年度に対し実績の H28 年度は減少しているので達成度は A となっているが、この数値は年によって増減が大きい。H27 年度は H28 年度より高い。社会資本総合整備計画策定の際発行されたニュースレター掲載の財政状況シミュレーションには、H28 年度 6.2%の所 H32 年度には 12.6%まで上昇するとある。それなのに財政状況は健全であると言えるのか。

第 5 次総合計画の成果と達成状況は実績を庁内で自己評価したものであり、第 3 者がみてこの評価が適当か不明な点がある。総括表には評価を数値化しているが何の数値かはっきりわからない。

人口については 9,500 人を目標とするということなら、どういう施策により到達するよう取り組むのか、はっきり素案に示してもらいたい。第 5 次総合計画では 11,000 人を目標人口とし、後期基本計画をたてる際それを訂正しなかったが、現在 10,000 名を切ろうとしている。H31 年度には必ず 10,000 人を下回っているだろう。第 5 次総合計画後期基本計画策定の際目標人口を訂正しなかったと同じ轍を踏んではならない。計画への財政的裏付けはあるのか、人員配置はできるのか、そこを踏まえて計画をたてるようにして欲しい。

小田切課長

まず財政状況が健全かどうかの質問に関して、全国統一の指標に基づく計算式に H28 年度決算の数値をあてはめると健全だと結果が出る。しかし今後もこのまま推移できるかという点と難しい。特に実質公債費比率について H28 年度実績 6.6%は低い数値であるが、これは 3 年間の平均値で、H28 年度だけみると 9.8%と非常に高くなっている。更に社会資本整備総合交付金事業は国庫補助金 4 割であるが、残り 6 割の 90%は借金に頼らなければならない。また穂高広域施設組合で予定している大改修事業の負担金のほとんどが借金となる。その上国の補助方法が変わったものもある。例えば以前消防ポンプ車購入の際 1/2 国庫補助が交付されたが、消防署が使うような化学車やタンク車は国庫補助対象のままであるが、町で使うようなポンプ車等は近年補助対象ではなくなり借金で買い、借金の返済に国が補助をするよう制度が変更となった。このような点から借金の依存度は高くならざるを得ない。財政状況シミュレーションにおいても実質公債費比率は益々上がるだろう。危機感を持って取り組んでいかなければならない。

交付税についても同様で一部削られ借金で賄わなければならなくなったものもあり、益々借金の依存度が上がることになる。

丸山主査

質問をいただいた経常収支比率に臨時財政対策債は H13 年度以降入っている。

牛越邦夫 委員	経常収支比率に臨時財政対策債が入っているのであれば、H25 年度実績値 75.40%について、こちらの計算では 81%位、H26 年度は 82.7%になるので、もう一度再計算をして数値を示して欲しい。
丸山史子 会長	その点については次回示して欲しい。

(4) 策定に関する今後のスケジュールについて (10 ページ)

(5) ワークショップ 池田町の未来を語ろう会 開催について (12 ページ)

(一括説明：塩川課長補佐)

伊藤将人 委員	<p>大学生という立場で千曲市、上田市、上田市旧武石村で住民対象に行政・大学と共にワークショップを主催し、且つ池田町主催ワークショップに参加した経験からワークショップ運営はこのようにすれば上手くいくという提案をしたい。</p> <p>ワークショップは来たいという意思を持った自発的な方しか集まらず、年齢層・考えの方向が偏りがちである。これは避けがたいことであるが、避けていかなければ町民の多様な意見を吸い上げることは難しい。そのため情報発信やアプローチ、人の集め方の方法には工夫が必要である。</p> <p>運営上では参加者から沢山意見を引き出し、出た意見にお互い批判はせず認め合うよう進められたい。マイナスに見える部分でもプラスの見方をすればより良い町になる、というように話が良い方向に発展するよう声掛けをして欲しい。行政批判をする場所ではないし、現在の時代の流れだからと思考をストップさせる場でもない。多様な意見を認め良い雰囲気の中で進めることが大切で、そのことを初めに主催者がきちんと伝えることが大切だ。その結果 1 回目参加した方が引き続いての参加につながり、広く参加者が集まることにもなる。</p>
丸山史子 会長	貴重なご意見感謝申し上げます。伊藤委員は千曲市等でワークショップを主催した経験をお持ちなのか。
伊藤将人 委員	行政や大学と連携したり、旧武石村では地域おこし協力隊が地域の指針をたてる際、市職員が入ると客観的な視野に立てないとのことで大学に依頼が来て外部者として関わった経験がある。
塩川課長補佐	情報発信についてまた会議終了後助言をいただきたい。
平林淳志 委員	住民から意見を聴く場はワークショップの他にどのようなものがあるのか。
塩川課長補佐	随時町民提案を町ホームページ上で受け付けている。総合計画策定に関しては、来年度はまちづくり懇談会や各団体との意見交換を予定している。
赤田弥壽文 委員	<p>ワークショップについて参加者の年齢が偏ると予想され、広く意見を聴取する場となるか心配がある。子育て中でこれから町の未来づくりをしていく年代が多く参加されるよう、三校 P T A 会長である平林委員より P T A 会員へ呼び掛けて欲しい。</p> <p>またワークショップでは第 6 次総合計画の素案ができていてそれについて話し合うのか。またグループで話し合いをするなら進行役がとても重要で行政批判など思わぬ方向に話が進んでしまう恐れがあるので、進め方についてお聞きしたい。</p>

塩川課長補佐	ご提案いただいた通り平林委員には会員の方への呼び掛けをお願いしたい。 ワークショップの運営は業者に委託する。こちらでたたき台を出してそれについて話し合うのではなく、テーマについて自由に意見を述べお互い多様な意見を認め合う場とし、一つの方向にまとめはしない。テーマは次第に記載の通りである。
赤田弥壽文 委員	グループに分かれて行うのか。
塩川課長補佐	全体では意見が出しにくいので、グループに分かれて行う。
赤田弥壽文 委員	グループそれぞれに委託業者の司会者が入るとのことか。
塩川課長補佐	そのとおり。
丸山史子 会長	様々な年代が参加されるよう望む。特に子育て中の参加者があれば良いが子どもが小さければ難しいと思うので、平林委員にはPTA役員を中心に呼び掛けをお願いしたい。他の委員もぜひ周囲に声をかけられたい。
牛越邦夫 委員	今後への要望として会議資料はなるべく早く送付願いたい。審議会傍聴を可とされたい。審議時間・回数が大変少ないので文書発言を可とされたい。検討課題が専門的になるので外部講師による勉強会、課題別の検討会、現場の見学会等を審議会以外に企画して欲しい。
塩川課長補佐	会議資料は早く送るよう努めたい。審議会傍聴を可とするのか検討したい。文書発言について事前の意見提出はもちろん可能である。外部講師による勉強会・課題別の検討会・現場の見学会等は検討したい。
牛越邦夫 委員	傍聴可否は事務局ではなく、審議会で決めれば良いと思うが会長いかがか。
丸山史子 会長	事務局と相談したい。
小田切課長	過去地域福祉計画策定の際傍聴可とした経過はある。今回可とするかは相談して決定したい。
牛越邦夫 委員	次回開催に間に合うように回答して欲しい。
丸山史子 会長	間に合うよう決定する。

8 その他

マイナンバー提出を事前にお願ひした方はご協力に感謝申し上げます。

本日配布させていただいた第5次総合計画後期基本計画概要版、総合戦略概要版は参考資料として後日ご覧いただきたい。

理事者は今回諮問ということで出席したが、次回からは同席しない。（塩川課長補佐）

牛越委員ご提案の事前に文書で意見・要望を出していただくことは大いに結構であると思う。資料等の説明時間は短縮して意見交換の時間を長くとるようにしたい。（小田切課長）

10 閉会（小田切課長）

終了 15:40